

委員会審査

9月定例会で決算特別委員会に付託された議案及び12月定例会で各委員会に付託された議案等について審査を行いました。

決算特別委員会

委員長 山本 光明

◆市税について

問 愛媛地方税滞納整理機構の活用状況及び市税以外の滞納に対する対応について

答 滞納整理機構への移管は、大洲市税滞納事案移管審査委員会において毎年40件を選定しており、平成29年度の実績は、移管件数40件で滞納額が約5,200万円に対し、徴収件数が40件で徴収額が約3,700万円となっている。

市税以外の滞納等に対する対応については、大洲市債権管理条例に基づき職員が共通的な考え方をもち、庁内で情報を共有し合いながら、担当課が個別に対応を行っている。

◆国体推進費について

問 多くの予算が減額されたり不用品となつているが、十分な大会

運営ができたのか。また、市職員やボランティアの方々など運営に携わった人数はどのくらいか。

答

大会開催にあたっては、様々な事態を想定して積算を行った。最も大きな要因は各競技会場の会場設営業務委託であり、入札減のほか、台風等により競技施設や運営施設などを一時的に撤去しなければならぬ場合を想定し緊急撤去費と再設置費を積算したり、行幸啓を想定しその経費等の積算をしたが、それらが不用となったため大幅な減額となった。

大会運営は大きなトラブルも無く成功を収めたと評価しており、市職員が4競技で延べ1,091人、ボランティアは延べ803人の皆様にご協力いただいた。

◆竹林再生・利用促進緊急支援事業費補助金について

問 平成29年度は約800万円を補助しているが、乾たけのこの生

産性は上がっているのか。

答

平成29年度は、愛媛県における生産実績が8・4トン約3,000万円、そのうち大洲市で4・65トン約1,800万円の生産、販売ができた。過去の実績は、平成27年度が1・15トン、28年度が5・57トン、29年度が4・65トンと、初年度と比較すると生産量は増えてきている。生産者からは価格面などの問題も伺っているが、まずは良質なものを納めてほしいとの先方の意向もある。良いものを納めたうえで値段の交渉等が行えればと考えている。

総務企画委員会

委員長 安川 哲生

◆平成30年度一般会計補正予算のうち市債について

説明 今定例会の補正予算は、歳入歳出それぞれ28億5,324万3千円が追加計上され、その財源は市債が11億2,120万円で補正額の39・3%を占め、今年度累計では、予算総額451億4,797万9千

円のうち市債の総額は110億3,387万7千円で、予算総額の24・4%となっている。

問

本年は7月豪雨災害の発生により予算も膨大となり、市債も多額となっているが、市が抱え込むこととなる借入金と市の負担額の見込みはどうなっているのか。

答

市債の総額約110億円は予算ベースでの金額であり、今の時点では決算見込みが出ていないため最終的な借入額は計算できていない。災害対策債の場合、借入額の95%が交付税措置され市の負担は5%となる。また、公共施設の災害復旧事業で借り入れる災害復旧事業債は、補助災害の場合、借入額の95%が交付税措置されるため市の負担は5%であるが、一般単独災害の場合は約50%の交付税措置となり、あとの半分が市の負担となる。

また、ブロック塀・空調設備改修事業に係る借入れは合併特例事業債を利用しており、借入額の7割は交付税措置されるので3割が市の負担となるが、交付税措置されても事業量が多くなると市債も市の負担額